



第2次総合計画の実施計画において重点化施策として示された「積極的に強化すべき12施策」、「最適化に向け見直すべき3施策」の計15施策の中から主な重点事業を紹介します。

1. 健康づくりの推進

●自転車活用推進事業（決算額 336 万円）

「自転車を活用した健康づくり実証実験」を松本大学に委託。実証実験とサイクリング指導を兼ねた教室を7回開催し、体重や血圧が改善される結果が報告されました。



自転車の効果を調査

2. 出産・子育て支援の充実

●公立認定こども園空調機設置事業（決算額 5,621 万円）

全園の遊戯室にエアコンの設置が完了。令和元年6月中に竣工。午睡の場所など、保育環境の向上が図られました。（穂高幼稚園空調機設置事業：698 万円）

●産前産後支援事業（決算額 1,149 万円）

令和元年度から産婦健康診査事業を開始。産後うつへの早期発見と支援を行いました。



健やかな成長を願って

3. 観光の振興（最適化に向け見直すべき施策）

●観光イベント事業（決算額 3,984 万円）

信州安曇野ハーフマラソンや安曇野花火などの定番イベントに加え、新たに信州安曇野田んぼアートを実施。関係者やボランティアが測量や田植えなどを行いました。



6万人以上が来場した田んぼアート

4. 景観の保全と育成の推進

●都市再生整備計画：明科駅周辺（決算額 2 億 563 万円）

市の東の玄関口として、駅前広場、周辺市道、公園などを整備。令和元年度は、駅前広場と周辺道路の用地取得、公園トイレの改修を実施しました。



明科駅前広場完成予想図

5. 移住・定住の推進

●しごと創出事業（決算額 3,223 万円）

就労機会の創出、とりわけフルタイムでの就労が困難な人の就業機会を提供するため、テレワークセンターを10月に開所しました。



地域で学校を支える

6. 学校教育の充実

●コミュニティスクール事業（決算額 954 万円）

地域住民が学校支援ボランティアとして活動。また、国・県の補助を活用し、中学校の部活動支援員を配置しました。

7. 生涯学習の推進

●図書館サービス事業（決算額 497 万円）

4か月児健診および2歳児健康相談時に図書館司書が保健センターなどに出向き、絵本などを配布しました。



オーストリアを応援

8. スポーツ活動の充実

●新総合体育館建設事業（決算額 7 億 1,003 万円）

技術提案型総合評価落札方式による一般競争入札により施工者が決定しました。

●ホストタウン推進事業（決算額 192 万円）

市は東京2020オリンピック・パラリンピックでオーストリアのホストタウンとして特にカヌーチームを応援しています。令和元年度はカヌー教室などに取り組みました。

市の財政を家計に 置き換えてみました



金額が大きい一般会計決算額を身近に感じてもらうため、年収500万円の家庭に置き換えてみました。

収入		支出	
項目	決算額	項目	決算額
給料や諸手当 (市税・地方交付税など)	307 万円	食費 (人件費)	59 万円
パート収入 (使用料および手数料など)	38 万円	医療費 (扶助費)	67 万円
親からの援助 (国県支出金)	75 万円	生活必需品や光熱水費 (物件費・補助費)	165 万円
ローンの借り入れ (市債)	55 万円	車などの修繕費 (維持補修費)	2 万円
貯金の取り崩し (繰入金)	16 万円	子どもへの仕送り (繰出金)	39 万円
昨年度からの繰越金 (繰越金)	9 万円	ローンの返済 (公債費)	61 万円
合計	500 万円	家の増改築費 (普通建設事業費・災害復旧費)	66 万円
		親戚への貸付金 (出資金等)	14 万円
		貯金など (積立金・来年度への繰越金)	27 万円
		合計	500 万円

しっかり考えて
家計を守らなきゃ。



市の借金について

市債の令和元年度末現在高（企業会計含む）は、755 億 2,900 万円ですが、これに対する普通交付税算入見込額（企業会計含む）は、516 億 9,400 万円となることから、市の実質的負担は 238 億 3,500 万円となります。市の借金を一世帯・一人あたりに換算（令和2年4月1日現在の世帯数および人口から算定）すると・・・

- 一世帯当たり 59 万 4,819 円
- 一人当たり 24 万 4,793 円

※合計額（構成比）は四捨五入などにより一致しない（100%にならない）場合があります。

歳出内訳（性質別）

